
聖華学園物語

神羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖華学園物語

【Nコード】

N6941L

【作者名】

神羅

【あらすじ】

テニスの王子様でお馴染み『跡部景吾』さん以外は、完全オリジナルキャラの小説です。

Wヒロインの学園ラブコメディになっているはずです。

跡部景吾とヒロインの一人のユアがカップリングになっているので、嫌な方は見ないほうがいいかと思われます。

学校生活は「こんな学校ないでしょう!？」というような行事がいっぱいの楽しい学校生活になっています。

出会いは突然に…？

4月1日。

聖華学園高等部の入学式が始まる。

「…。ここ、どこよ？（汗）」

そう、小さく呟いたのは【如月ヒサノ】。

聖華学園の体育館に行くはずが、真逆の方向に行ってしまう、ヒサノは人気のない校舎裏にいた

どこからどう来たのかサッパリわからない極度の方向音痴女ですv
（笑）

困っていると、背後に気配を感じた！！ 振り向くと…？

「どうしたの？ こんなところで？」

と、【琴葉ユア】が現れた

「あ、あの…迷っちゃって（苦笑） 体育館に行くはずが、こんな辺鄙なところに（汗）」

「あ、そうだったんだ？ 校舎裏にふらふら入っていく貴女を見て、『気分が悪いのかな？』 と思って後を追ったの（笑）」

「ありがとう、貴女が来てくれなかったらこのまま校舎裏を彷徨ってたところだったわ（笑）」

「あはは、貴女、面白いねv（笑） 名前、教えてくれない？ 何か、仲良くなれそうv（笑）」

「私は如月ヒサノ！ 呼び捨てでよろしく 貴女は？」

「私は琴葉ユアv 私も呼び捨てで！ よろしく！ ヒサノ」

こうして出会い、仲良くなったヒサノとユア

そのころ、

別の場所…

「ヤバイなあ…この調子だと遅刻だよ（汗） 入学式から遅刻って

シヤレにならないな…」

と、聖華学園に向かい、走りながら呟く【須堂慶】

急いでいるのに、運悪く信号に捕まり、焦っている時に、慶の横に
リムジンが止まった

そして、後部座席の窓が開いた！！

「お前…須堂か？」

そう、窓から顔を除かせて、【跡部景吾】が言った

一瞬、『何事か！？』と、戸惑ったが、景吾の顔を見て声を上げた！

「まさか…跡部か！？」

「その『まさか』だ（笑） 3年ぶりか？」

「ああ！ 小学校以来だな（笑） 懐かしいな、お前、全然変わってないね（笑）」

「お前だつて変わってねえじゃねえか（笑）」

慶と景吾は笑いながらそう話していたが、慶ある事が思い出した
「悪い、跡部！ オレ、入学式に行かなきゃ（汗）じゃあ、またな
！」

と、走り出そうとしている慶を、景吾は引き止めた。

「お前、聖華に行くんだろ？」

「ああ、よくわかった…つて、制服で解るか（笑）」

慶が制服をつまんで言った。

「偶然だな（笑）」

「え？」

がちやつとリムジンのドアを景吾が開けると…？

「俺も今日から聖華学園なんだよ（笑）」

と、慶と同じ制服を着た景吾が出てきた

「…マジで？（笑）」

「ああ（笑） 乗っていくか？」

景吾が手で車の中を指差し、にやりと笑った（笑）

「ああ、頼む（笑） また、よろしくな、跡部（笑）」

「【跡部】じゃなくて【景吾】にしねえか？（笑） 【跡部】だと、

小学校のまんまだしな（笑）」

車に乗り込みながら景吾がそう言った

慶も、車に乗せてもらい、同意した

「ああ、賛成✓ オレも【慶】でよろしくな（笑）」
お互い、顔を見て笑った

入学式が終り、校庭でクラス分けが始まった

1年3組 如月ヒサノ・琴葉ユア・須堂慶・跡部景吾

この4人が同じクラスになった

さあ！ 学校生活が始まる！！（> <）

出会は突然に…？（後書き）

初投稿なので、かなり緊張しています。

受け入れてもらえるかどうかがとても不安です。

これは3年前くらいに書き始めて、今もまだ連載中です。
書き方があまり上手くないと思います。すみません。

喫茶店で…

4月3日。

始業式が終り、クラスでの総合時間が始まった

「さて、これから1年、同じクラスになるんだ。自己紹介をしないとな。」

と、担任である緒方先生が言った

「じゃあ、まず跡部くんから。お、そうそう、大抵、出席番号が1番の奴がクラス委員長になる。やってくれるか?（笑）」

「…はい、引き受けます。跡部景吾です、よろしく」
自慢の笑顔でクラスの女子を悩殺?!

それはわからないけど、とにかく目立ちますね（笑）

さてさて、順々に自己紹介をしていると、今度はヒサノの番に!

「如月ヒサノです、よろしくお願いしますv」

にこっと笑って一礼するヒサノ　それを見た跡部はあることを頭の中で考えた!

「（アイツ…どこかで会った気がするな…）」

どんな接点が!?　それはともかく、今度はユアの番

「琴葉ユアです、よろしくお願いします」

少しはにかんで笑うユアちゃん

ヒサノちゃんと目が合い、恥ずかしそうに笑った（笑）

そして最後は慶の番

「須堂慶です!　よろしく!」

慶の白い微笑みで顔を赤くする女子多発!?（笑）

ともかく、このクラスで印象的だったのは、

景吾・ヒサノ・ユア・慶

半日の学校が終わり、近くの喫茶店に入ったヒサノとユア！

「よかったよねー♡ 同じクラスで♡ 嬉しい♡」

と、キヤラメルフロステイーを食べながらユアが言った

「しかも苗字が【き】と【こ】で結構近いから、掃除の班とか一緒かもね♡」

と、紅茶を飲みながらヒサノも笑顔で言った

その時、喫茶店の入り口が開き、聖華の男子学生が2人、入ってきた

慶と景吾である！

4人の視線が自然とぶつかった

「……」

無言

そこへ、店員さんがやってきた

「2名様ですか？」

「あ、ああ」

「今、お席がいっぱいなんですよ、もう少し待っていただけると空くかと思われるのですが……」

それを聞いて、ヒサノとユアが顔を見合わせた
小声で……。

「どうする？ユア。 席譲ろうか？」

「うーん、そうだね、一応食べ終わってるし……って、あの2人、同じクラスの……えーっと」

「……名前忘れたけど、確か同じクラスよね」

「……」

「譲るか。 あの時、もしよければ、私たちもう出るんで、この席に……」

と、ヒサノが言うと、慶と景吾は顔を見合わせた

「まだ、飲んでるんじゃないの？ 如月さん」

と、慶がヒサノに言った

「（あ、名前知ってるんだ） 大丈夫です、後、一口くらいなんで」と、ヒサノがにつこりと慶に話すと、慶は少しときめいた（笑）
そして、興味を持った！

慶 「じゃあ、オレたちを同席させてくれない？ そこ、4人席だし」

ヒサノ「え…あ…、どうする？ ユア」

ユア「いいよ？ 同じクラスの人だし、ね？ えーっと、ごめんなさい、名前忘れちゃったの。」

景吾「俺は跡部景吾だ」

慶 「オレは須堂慶だよ」

ユア「私は琴葉ユアです！」

ヒサノ「如月ヒサノです」

景吾「すみません、あそこの席と合流するので」

と、景吾が店員さんに言つて、2人は席の近くに寄ってきた

ヒサノ「えっと…どう座ります？」

ユア「じゃあソファー側に私とヒサノで座ろうか？」

慶 「うん、それでいいよ」

そう、4人が席に着くと、景吾がある事を思い出した

景吾「まさか…ヒサノか？」

ヒサノ「はい?? 確かに名前はヒサノで…あ つ…!!」

ユア「な、何!? どしたの!？」

ヒサノ「跡部景吾か!! 思い出した!! 昔、向かいの家にいた景吾よね!？」

慶 「え、景吾、知り合い!？」

景吾「やっぱりな（笑） どこかで見た顔だと思った（笑） お前、幼稚園の卒園式の日に千葉に引っ越したヒサノだろ？（笑）」
ヒサノ「そうそう！ うっわ、マジで？ 幼稚園の幼馴染にこんなところで会うなんて…（笑）」

慶「偶然だね（笑） オレは景吾と小学校の幼馴染だよ（笑）」
ヒサノ＆ユア「マジで！？」（笑）」「

慶「うん、マジ（笑） っと、オレは君達のこと、何て呼んだらいい？」

ユア「【ユア】でいいよ」

ヒサノ「私も【ヒサノ】で結構よ」

慶「ありがとう、オレは【慶】でいいよ」 よろしく、ユアちゃん、ヒサノちゃん」

景吾「俺も【景吾】でいいからな。ヒサノにユアか、よろしく（笑）」

そう言い終った後、男性陣2人はヒサノとユアをじーっと見た

ヒサノ「…何？（笑）」

ユア「何々？？ ん？クリームでも付いてる？？ 見て？ヒサノ

【ヒサノに顔を見せる】」

ヒサノ「いや、付いてないよ（笑） 私は？？」

ユア「付いてないよ（笑） どーしたよ？慶くんは景吾くん（笑）」

「

景吾「いや…気に入ったな、と思ってな（笑）」

慶「同じく」（笑）」

ユア「気に…」

ヒサノ「入った…？？」

景吾「ユア、彼氏いるか？」

ユア「何を言うかと思えば（笑） いない、いない（笑）」

景吾「ふうん…」

慶「ヒサノちゃんは？v」

ヒサノ「ん？ いないよ？ モテないし（笑）」

慶「へえゝ……」

ユア「…何だ何だ？？（笑）」

ヒサノ「あはは、私たちに一目惚れしたとか？v そんなことない……」

慶「よくわかったねv」

景吾「よくわかったな（笑）」

間。

ヒサノ&ユア「…は？？ 今、何と？」

景吾「一目惚れしたのか？と言ったから答えただけじゃねえか（笑）」

慶「オレ、ヒサノちゃんに一目惚れしちゃったな」

景吾「俺はユアだな（笑）」

ヒサノ&ユア「……………ええ！？／／／／」

景吾「ユア、俺と付き合わねえか？」

ゆい「え…え…！？ ど、どうしよう！？ ヒサノ！！【パニツク】」

ヒサノ「…うゝん、いいんじゃない？ 一応、カッコいいから（笑）」

「

ユア「何て適当な！？（笑）」

景吾「で、どうなんだよ？（笑） 不服か？（笑）」

ユア「い、いや、不服なんてありませんが…突然でびっくりしたよ（笑） ……いいよ？付き合おうか（笑）」

景吾「ああ、よろしくな（笑）」

ユア「うん（笑）」

結構軽いノリで付き合うことになった景吾とユア

慶 「で、オレはヒサノちゃんと付き合いたいんだけど? (笑)」
ヒサノ 「…何で私? (笑)」

慶 「そう来たか (笑) 初めのクラス自己紹介の時から気にな
ってて、ここで会ったのも何かの縁かと思って告白した。どう?」
ヒサノ 「誰でもいいってわけじゃないなら付き合うよ (笑)」

慶 「もちろん、ヒサノちゃんがいいんだよ (笑) じゃあ、
Yesと取っていいのかな?」

ヒサノ 「うん、よろしく」 慶くん (笑)」

慶 「よろしく」

こちらも結構軽いノリで付き合う慶とヒサノ

さてさて、付き合うことになった4人

これからどうなる!? 学園コメディ LOVE が始まるっ!!
(笑)

喫茶店で…（後書き）

（笑）とかを使い過ぎでしょうか？
セリフの前に名前を入れる癖を直さなければならぬと思う今日の
頃です。

いきなり実力テスト&罰ゲーム!?

4月7日。月曜日。

付き合いだしてから4日

なのに、この2カップルの噂はもう聖華学園にバレバレ(笑)

公認カップル って感じ?(笑)

もちろん、噂を広げたのは慶と景吾(笑)

悪い虫が付かないように早速手を打った彼氏ズ(笑)

そして今日は…!!

ヒサノ「抜き打ち実力テスト?!?(;)」

慶「うん、らしいよ?(笑) これね、1番〜50番まで張り出されるんだって(笑)」

景吾「上等だぜ(笑)」

ユア「景吾くん、『上等だぜ』って喧嘩じゃあるまいし(笑)」

ユアちゃん、もつとも

慶「3人とも、自信ある?(笑)」

「『もちろん!!』」

慶「じゃあ、4人の中で順位最下位の人、明日、4人分のお弁当作ってくるってどう?(笑)」

ユア「おもしろそう!!(笑) やるやる!(><)」

ヒサノ「いいけど、慶くんと景吾は料理できるの?(笑)」

景吾&慶「困らない程度には(笑)」

ユア「よし! じゃあやろっv えーっと、国語、数学、英語、理科、社会か…」

ヒサノ&ユア「いざ、尋常に勝負!!! (笑)」

5時間かけて、テストが全部終わった

只今。午後二時。 午後五時に結果発表らしいので、
それまで校庭でお茶を飲んでいる4人

ユア「どうだった？ 手応え（笑）」

ヒサノ「ユアは？」

ユア「ふっふっふ、結構自信があるのだ（笑）」

慶「オレも自信あるよ」

景吾「……………」

ヒサノ「どうしたのよ？ 景吾（笑）」

景吾「いや…英語のリスニングのテストあっただろ？」

「…うん」「」

景吾「楽勝でわかって、答案用紙に答え書いてたんだが…全部書いたら枠が一つ余ったんだよ」

慶「…それって（笑）」

景吾「どこかを飛ばして書きちまって、その後、全部答え1つずつずれたんだよな、きつと（汗）」

「…あははははははははは！！！！（爆笑）」「」

ヒサノ「うわぁ、天才跡部景吾でも間違いはあるのね（笑）」

ユア「じゃあ、明日は景吾くんのお弁当かな？（笑）」

慶「楽しみにしてるよv（笑）」

景吾「ちっ…（笑）」

さて、午後5時

職員室前に張り出されます

1位から順に見ていくと…？

慶「よーっし！！ オレ、3位！！（笑）」

ヒサノ「すごっ！？」（笑） あー！ユア、10位じゃん！！」

ゆい「やったね ヒサノは…11位！？ しかも合計、私と2

点しか変わらないじゃん!!（笑）」

景吾「…15位か。今回は負けたな（笑）」

でも、この4人凄くない!? 学年合計600人いるのよ!?（笑）

慶「さあ、明日は景吾のお弁当だからね（笑）」

ヒサノ「ちゃんと自分で作りなさいよ?（笑）」

景吾「わかつてる（笑）」

ユア「楽しみにしてまあすv（笑）」

次の日。

キンコーンカーンコーン

ユア「お弁当 お弁当」

慶「中庭に行こうか」

景吾「慶、一つ持ってくれ（笑）【包みを一つ渡す】」

ヒサノ「何かな? v 楽しみだわ（笑）」

In 中庭

景吾「さあ、作ってきたぞ。」

そう言つて、包みを全部開けると…?

ヒサノ「…これ、ローストビーフ?（笑）」

景吾「そうだ（笑）」

ユア「これ、ウニ?（笑）」

景吾「ああ、半生だ。腐らないようにちゃんと氷添えたりクーラーボックスに入れたりしたから大丈夫だぞ（笑）」

慶「このオムライスとサンドウィッチ、作ったのか?（笑）」

景吾「まあな（笑）」

ヒサノ「景吾のお弁当、飽きないね、きっと（笑）」

ユア「うん（笑）　こんなにバラエティーに富んだお弁当、初めて（笑）」

慶「お前：今日、何時に起きて作ったんだ？（笑）」

景吾「：4時。」

うん、偉い（笑）

いきなり実力テスト&罰ゲーム！？（後書き）

本当はWordで書いてるからフォントの種類や大きさを変えたりしているのですが…反映できなくて残念です。

ほのぼのLOVEを目指しているつもりなのですが、どんどん趣向が変わっていきます。

またまた抜き打ち　今度は体力測定！？

景吾のお弁当を食べ終わって、話していると…？

ピンポンパーンポン

『新1年生の皆さん、今から体力測定をします。教室に戻り、運動服に着替えて校庭に集合してください』

「……」

景吾「何でこんな急に体力測定するんだよ？（笑）」

慶「さあね…（笑）　とにかく、一旦教室に戻って着替えないとな」

ヒサノ「ユア、更衣室ってどこだっけ？？」

ユア「体育館の隣じゃない？　っていうか、600人近くいて、半数女子だとしても…300人も女の子どこで着替えるのかな？（汗）」

ヒサノ「…教室かな？」

ずるっ　（3人がずっこける音）

景吾「お前、男子生徒も教室で着替えるんだぞ！？（汗）」

ユア「ヒサノ、女の子だからそれはダメよ？（汗）」

慶「ヒサノちゃん…（汗）」

ヒサノ「いや、まあ、今の発言は忘れて（笑）　とにかく、教室に体操服取りに行かなきゃね（笑）」

とりあえず、体操服を取りに帰り、ヒサノとユアたち、つまり女子は体育館で着替えることになった

着替え終わって、校庭に出ると、沢山の生徒がいた！

ヒサノ「ユア、体育得意？」

ユア「まあまあ？ ヒサノは？」

ヒサノ「私、苦手（汗） 泳げないし、運動できないのよ（笑）」
そう言いながら、校庭に向う2人

2人の周りには、同じクラスの女の子たちが取り巻いていて、にぎやかに話している

「ヒサノ、体育苦手なんだ？ イメージと違うね（笑）」

「意外にユアちゃんが得意なんだよね？」

「えー、みんな結構走るの速いんだ！？ ヤバイ、私遅いの！（汗）」

などと、和やかに話をしていた

生徒が揃うと、体育の先生たちが出てきて、生徒を整列させた。

先生「よし、じゃあまず、1組は50m走！ 2組はソフトボール投げ！ 3組は…」

ヒサノ「っていうかさ、15クラス一気に測定って効率悪すぎじゃない？（笑）」

ユア「だよな（笑） まあ授業が潰れていいか（笑）」

などと、クラスの女子みんなで話していると、慶と景吾が50m走を計るようだ！

女子全員、注目 そして、合図と同時に走り出す慶と景吾を見て、女子ため息（笑）

「いいなあ、あんなカッコいい彼氏（笑）」

「羨ましいよー、ヒサノ、ユア（笑）」

「ねえねえ、どっちから告白？v」

「っていうか、付き合いだすのかなり早かったよね？」

と、女の子特有 恋バナです！

「いや、偶然喫茶店で会って…（笑）何か、付き合う？みたいな感じに…ねえ？ユア（笑）」
「何か結構縁があったみたいで、ねえ？（笑）」
と、居心地悪そうに笑う2人

走り終わった慶と景吾、クラスの男子生徒がいるところに戻ってきた

「お前らが走ってる時、女子が『カッコいい』とか色々話してるの聞こえたぞ（笑）」

「っていうか、お前ら、何で初っ端から可愛い女の子ゲットしてんだよ！？（笑）」

「如月さんに琴葉さん、かなりポイント高いんだぞ？」

「そりゃ、俺の彼女だから可愛くて当たり前だ（笑）」

「ポイント高いだろうねえv女の子からも人気あるみたいだし？」

絶対渡さないからな（笑）」

男子生徒諸君も興味あるのね（笑）

さてさて、

ヒサノとユアも、走り終えて、今度はソフトボール投げ
まずはヒサノの番！

「頑張れー！ ヒサノちゃん」

などと、声援を受けて、投げた結果…。

7m。

一同『え…？』

先生「…如月、もう1回やらせてやるから、今度はちゃんと投げろよ？（汗）」
ヒサノは恥ずかしそうに頬を掻きながら、頷いた（笑）
調度、クラス全員（男子含む）見ているので、緊張しているのか？
と、思いきや…

6 m。

一同『え…』 再び

ヒサノ「…。すみません、力がないのでこれが精一杯で…」（汗）」
先生「そ、そうか…」（汗） 如月、ちゃんと握力はあるか？」
ヒサノ「はい、さっき計ったら、右が18で左が16、ちゃんとありました。」

…。 ちゃんとある！ って、言える数字でしょうか？（笑）

仕切りなおしにユアちゃん登場 （笑）

「ユアー！ ヒサノの二の舞にならないでねー！（笑）」

「悪かったわね！（笑）」 ヒサノ

「そりゃっ！！（笑）」

ひゅ~~~~つ…

一同『え！？』

記録：40m

結構飛んだね

先生「上出来、上出来（笑）」

ユア「ありがとうございますv えっへへ」 ヒサノに余裕勝ち

（> <）「

休憩時間

「ん？ ヒサノ、ユア、彼氏さん来てるよv（笑）」

「アツアツv ヒューヒュー」

周りに冷やかされ、少し恥ずかしそうに慶と景吾の近くに行った（笑）

景吾「よう、7mの女（笑）」

ヒサノ「失礼な！！」（；）（笑）」

ユア「景吾くん、違うよ！6mだよ！！（笑）」

ヒサノ「ユア、フロアになってない（笑）」

慶「あはは、いや、あれはおもしろかったよ、マジで（笑）」

景吾「お前、運動苦手だったんだなあ？（笑）」

ユア「いや！逃げ足は速かった！！」

『…逃げ足？?』

ヒサノ「逃げ足というか…（笑）」

慶「何？ 逃げ足って（笑）」

ユア「5人いっぺんに走るでしょ？」

その中にキス魔の女の子がいて、『私より遅かったらキスしちゃうからv』って言われてたの（笑）」

景吾「ははははは！！（爆笑）」

慶「うん、そつ…それは逃げ足…だね（爆笑）」

ヒサノ「もう必死よ？（笑）」

慶「必死になるだろうね（笑）」

ユア「で、堂々の1位！ ね？逃げ足でしょ？（笑）」

景吾「だな（笑） 俺と慶も結構速かったぜ？」

慶「うん、クラスの中ではトップのほうだよ（笑）」

ユア「私もトップのほうだよv ヒサノもソフトボールと握力以

外は大丈夫だね？（笑）」

ヒサノ「いや…バレーボールの連続トスが出来なかった（笑）」

慶「何回だったの？」

ヒサノ「…7回」

景吾「嘘だろ…？」

ヒサノ「その同情込めた言い方やめろ！！（笑）」

ユア「え、そなんだっけ！？（汗）」

ヒサノ「ユアのいない時に順番回ってきたのよ（笑）」

慶「まあ、いいじゃん？ 気にしない気にしない（笑）」

景吾「球技大会どうすんだよ？7回はキツイぜ？」

ヒサノ「大丈夫！ 一人でトスするのが苦手なだけだからv（笑）」

ユア「よかった」(笑)

景吾「お。召集がかつたな。じゃあな、また後で」
慶「バイバイ」

またまた抜き打ち 今度は体力測定！？（後書き）

この小説は、ほぼオリジナルになっているので、ここまで読んでいただけたなら感無量です！

どんどんギャグに突っ走っていく感じなので、着いてきてもらえたら嬉しいです。

ある英語の授業で

第4限目、担任の緒方先生の英語の授業中

緒方「じゃあ英語の教科書の2ページ目。須堂、例文1の訳」

須堂「はい。【彼女はそのパーティーに出席する必要がある】」

緒方「正解。では、小島。例文2の訳」

小島「はい、【あなたがこの小包を送るのに5ドルかかるでしょう】」

緒方「正解。」

ここまではいいんですよ、問題はその後です

緒方「如月、琴葉。このペア文を実際に会話形式で言ってくれ（笑）」

如月＆琴葉「ええ！？（ ; ）」

「おー！ 頑張れ頑張れ（笑）」

「あはは、やってやって！（笑）」

はやし立てられて、本を持って教卓のところへ（笑）

如月「えつと： I'm crazy about him.」

彼に夢中なの」

次は琴葉の番なのですが、一人の女子が声をあげた！

「ユアちゃん！ ホントの彼氏の名前で答えて！！（笑）」

琴葉「ええ！？（汗）」

緒方「お。それはいいな（笑） お前たちの噂は全員知ってるし、

ここからは本命の名前で会話してみては？（笑）」

如月＆琴葉「嫌ですよ！！（汗）」

それを見て笑ってる彼氏ズ（笑）

クラス内では「やって 言って やって 言って」のコー

ルで充滿（笑）

琴葉「うう…いじめだ（涙） いいもん！ Kei is a
playboy. But I think he has a

crush on you. (慶はプレイボーイなのよ。でも、彼は貴女が好きみたいよ)「

『おお !!! (笑) いいぞいいぞー!! (笑)』

如月「I fell in love with him at first sight. (一目惚れなの)」

…つて、ねえ、緒方先生!! もういいでしょ!?(笑)
これ、かなりハズいんですけど!?(笑)「

琴葉「そうですよ! (笑) ってういうか、もうこの文終ったし、いいですね? (笑)「

緒方「よし、まずは交代だ(笑)「

…交代??

緒方「跡部、須堂。如月と琴葉と交代だ。」「

『え?』

緒方「跡部と須堂は、5ページの対話文だ。須堂から」

須堂「マジっすか! (笑) えっと…She's too much for me. (彼女は高嶺の花だなあ。)」

跡部「Who is she? (彼女って誰だ?)」

『本命の名前でね !! (笑)』

須堂「オッケー(笑) Hisano. I'm trying to make a pass at her. (ヒサノだよ。彼女にアタックしようと思ってるんだ。)」

『って、もうアタック済みだろ？（笑）』と、いう一人の男子生徒のツツコミで一同爆笑

跡部「She's a nice girl. Take it easy!（彼女はいい人だよ。頑張れ!）以上（笑）」

須堂「もういいですか？（笑）」

緒方「そうだな：跡部、須堂、じゃんけんしろ（笑） 負けたカッブルにはもう1つやってもらう（笑）」

『緒方先生、ナイス（爆笑）』

如月「ナイスじゃない!!（笑） 慶くん！絶対負けないですよ?」

琴葉「景吾くん、もう恥かきたくないから勝つてよ」（笑）」

「最初はグー! じゃんけん、ポン!」 間抜け（笑）

須堂「勝ったー!!（笑）」

跡部「悪い、ユア（苦笑）」

琴葉「そんなあ（涙）」

如月「いつてらっしやい!（> <）」

さあ、また教卓の前に立つユア そして景吾（笑）

クラス中がはやし立てる中、英会話を始める（笑）

跡部「Are you free tonight? Would you like to go for a drive?

（今晚暇かな? ドライブに行きませんか?）」

琴葉「Are you trying to pick me u

p? (私をナンパするつもりなの?)
「跡部「You're my type. (君、僕のタイプなんだ。」」

「大人の駆け引きだ… (笑)」

緒方「ん? 今、呟いたのは如月か? (笑)」

如月「(しまった! 声に出た! (汗)) い、いえ、違います (笑)」

緒方「如月だな (笑) じゃあせっかくだから、如月と須堂もやるか? (笑)」

如月「結構です!! (汗)」

須堂「オレ、やってもいいですよ? (笑)」

如月「慶くん!?!」

緒方「よし、じゃあ跡部、琴葉、ご苦労 (笑) ほら、如月と須堂、ここに来い (笑)」

またまた教卓の前にやってきたひとみと慶

緒方「じゃあ… 13ページのところを。大丈夫、普通の英会話だ (笑)」

「はい (笑)」

如月「Please fill out this… レジストれ… すか… ド???ぬー???」

「何語!?! (爆笑)」

緒方「何語だよ (笑) 如月、英語だ (笑)」

須堂「あはは（笑） 最後の『ぬー???』って何？ ヒサノちゃん（笑）」

如月「わかんない（笑） 何か勝手に口から出た（笑）」

緒方「まあ、授業の最後の締めを、如月の『ぬー???』にしとくか（笑） 今日はこちらまで、また明日も英語あるからな（笑）」

「緒方先生！ この授業のやり方おもしろいんで、是非、明日も！（笑）」

「賛成 ！！（笑）」

「超楽しみにしてるねーv ヒサノvユアv（笑）」

如月＆琴葉「もうやらない！！（笑）」

ある英語の授業で（後書き）

英語の授業風景を書いてみました。

恥ずかしいけど、こんな授業は楽しいだろうなと思います。

緒方先生は後々活躍してきますので！！

コンテスト!?

4月下旬の月曜日。

昼休みにゆつくりと昼食をとっている1年3組のクラスに、ある生徒の大声が響いた

「聞いて聞いて!!明日の昼休みに美少年コンテストするんだって
!!!（笑）」

ユア「...。出たら?景吾くん、慶くん（笑）」

ヒサノ「うん、楽しそうだから出てみたら?（笑）」

と、暢気に話しているユアとヒサノに...天罰が!?

「女子2人ペアで、1人は男装して美少年&美少女カップルを作るんだって!!」

「マジで!? ヒサノ、ユア!! 出なよ!!（笑）」

「絶対いけるってv ヒサノは男装してユアは可愛い格好するのv
ね!いいよね!（笑）」

「...は?（汗）」

2人は『嫌だ』という風に固まったが、その次の言葉で心変わりした

「優勝は現金5千円だって!!」

ヒサノ&ユア「よし、やろう!!!（> <）」

景吾「現金な奴だな（笑）」

慶 「あはは、まあいいじゃん（笑） で？ どんな服装するの？v」

「ともかく、ヒサノ！ユア！ 早く食べてこっち来て！ 衣装考えないと！！（笑）」

「オツケー」

次の日の朝…。

クラスの女子たちが考えた服装

ユア：白いシルクのブラウスに大きい赤いリボンを胸元に

黒のこうもりスカートに黒いハイソックスに革靴

とどめに、可愛らしい燕尾服を羽織る

「サイコーじゃない！？ ね！（笑）」

「かつわいい」v 跡部くん、見た！？ 彼女の晴れ姿v（笑）」

「あ、ああ…（笑）（似合ってたなあ）」

ヒサノ：白い半袖のブラウスに、黒っぱいネクタイ

男物の黒い上着を羽織り、ズボンはストリートダンサー風

に　そして運動靴

髪は服の中に隠したので、ショートカットに見える！

「おお！ 男前v（笑）」

「それって褒めてんの？（笑）」 ヒサノ

「褒めてる褒めてるv 須堂くんと雰囲気似てるよね？何か（笑）」

「似たものカップルってやつ？（笑）」

「あはは、カッコいいよ、ヒサノちゃんv（笑）」 慶

さてさて、着替え終わってコンテスト会場の中庭に行くところ？

「やっぱり、ヒサノとユアが一番イイ線いってるって！ これは勝つでしょ？ね？」

と、ヒサノとユアの周りを取り巻いている女の子たちは言った

慶と景吾は、女子に押しつぶされると嫌なので、教室の窓から様子を観察している（笑）

慶「うん、これは勝ったでしょ（笑）」

景吾「ああ（笑） 楽勝だろ……ん？ おい、慶、あれ見ろ！！」

慶「え？」

と、景吾が指をさしたのはヒサノとユア！

そう、ヒサノとユアは何故か男子生徒から沢山のラブレターを貰っている

おそらく、いつも慶と景吾と一緒に渡せなかったのが、今日はなんとラッキーなんだろう？

ヒサノとユアの鉄壁的存在がいらないんですよ（笑）

これを見過ごすわけではない！！

慶と景吾はダッシュで中庭に出て、ヒサノとユアの所へ行った（笑）

慶「はい、そこまで！ストップ！【黒笑み】」

景吾「お前ら、どさくさに紛れて何、アピールしてんだよ？（笑）」

「いいじゃねーか！！ ラブレターくらい渡したいんだよ！（笑）」

「お前らばかりズルイ！！（笑）」

などと、言いつつ、男子生徒は笑いながら『如月さん！琴葉さん！

慶と景吾に飽きたら俺たちに声かけてな』と言って去っていった（笑）

慶「全く、油断もすきもないな（笑）」

ユア「景吾くんたち、目がいいねえ（笑） 教室からわかるなんて（笑）」

景吾「どんな人ごみでも俺はユアのことをみつけてやるよ」

ユア「っ！！／／／ あ、ありがとう／／／」

今のセリフ、恋人から言われたら最高ですね…！！

ヒサノ「いやん、アツアツ（笑） まあそれは置いておいて、ユア？ エントリーしに行くよ」（笑）

ユア「あ、うん！／／／」

慶「あ……（汗）」

ヒサノとユアはさつさとエントリー場に行った

景吾「…言いそびれたのか？（笑）」

慶「うん…（苦笑） オレもヒサノちゃんに何か言おうと思ったのに…（笑）」

残念だったね！慶くん

エントリーが終わり、コンテストが始まった

全部で15組くらいだろう。女子30人が観客の前に立った

司会「さて、始まりました！ カップル美少年＆美少女コンテスト！

まずは立ち姿で審査してください

紙を配るので、【一番いいな】と思うカップルにチェックして下さい！」

：

：

：

司会「はい、集計が終わりました。現在のトップは9組の如月・琴葉ペアです！」

『ほら！ やっぱり 絶対ヒサノとユアがいいよ！（笑）』

『次は何の審査だろうな?』

慶「納得のいく結果だねv(笑)」

景吾「もちろんだ(笑)」

司会「では、1組ずつ【熱い抱擁のあと、観客席目線で一言お願いします!】(笑)」

『…は?(爆笑)』

司会「あ、別にオリジナルじゃなくていいですよ? 芸能人が言
つてた言葉でも構いませんし(笑)」

例えば、『ただけ〜〜〜!』とかでもいいですよ(笑)

」

うん、司会者、ノリ良すぎ (笑)

慶「うわぁ…面白いコンテストだな、これ(笑)」

景吾「あいつ等、何を言うんだろうな(笑)」

順々に熱い抱擁と一言を言うカップルたち(笑)

そして、ついにヒサノとユアの番!!

司会「では、如月・琴葉ペア、お願いします!」

『頑張つてね〜!(笑)』

『やれやれ〜!(笑)』

ヒサノとユアは立ち上がり、熱い抱擁 そして観客に向かって一言
!!

如月&琴葉「キスされるより、するほうが性に合ってますのでv」

「 し っん

と、一瞬してから、

『あはははははー!! (爆笑)』

と、大爆笑が起こった

景吾「ふ、普通に言葉のチョイスが間違ってたんだろ!? (笑)」

慶「あはははー!! (笑) なかなかすごい言葉を思い出したね
(笑)」

審査終了

司会「優勝者発表!! ルックスもオツケーなのに笑を取るのも超一流!?

9組の如月・琴葉ペア優勝!!」

「「やったー!! 5千円!!」><」」

コンテスト！？（後書き）

何だか、どんどん自信をなくします（汗）

昔書いた小説とはいえ、「これ、投稿して大丈夫？」という気持ち
が…。

もしよければ、何か感想書いていただけると嬉しいです！！

5月のGW!!

5月3日 土曜日 ゴールデン・ウィークの始まり

今日は、初めて学校以外で会うことになった4人！
午後2時。

ユア「この【出会いの喫茶店】でお茶するのは1ヶ月ぶりくらいだね」

ヒサノ「ねえ、【出会いの喫茶店】って、出会い系喫茶じゃないんだから名前変えようよ（笑）」

景吾「まあ、意味は間違ってたないが…（笑）」

慶「確かに出会い系みたいな感じに聞こえるね（笑）」

そう、この4人は、カップル成立させた喫茶店に來ています

景吾「それにしても…私服で会うのは初めてだが、ユアはイメージ通りと言うか何というか…（笑）」

ヒサノ「ビックリでしょ？ ゴスロリなのゝ まあ【ゴス】は黒髪だし、【ロリ】もあってるしね（笑）」

ユア「ヒサノ、【ゴス】はまだしも【ロリ】があってるって何さ？（笑）」

ヒサノ「男性陣の前では言えませんかゝ（笑）」

慶「いや、言わなくても…」

景吾「わかる（笑）」

ユア「…景吾くんの痴漢 ……！！（笑）」

ずるっ 3人がずっこけた音（笑）

景吾「お前な、俺だけじゃねえぞ？（汗） 慶だって気付いてるし、学校の奴らも知ってる（笑）」

ユア「だって、今の景吾くんの視線が痴漢だった（笑）」

ヒサノ「もろ見てたしね（笑）」

ヒサノちゃん、フォローなし!?

景吾「じゃあヒサノはどうだつてんだよ?（笑）」

ヒサノ「待った! 私と一緒にしないで（笑） 私、女だから（笑）」

慶「そうだよ、景吾（笑） ヒサノちゃん、女の子だよ?」

ユア「そうだよ! ヒサノはカッコいいお姉さまだよ!? 一緒にしちゃダメダメv（笑）」

ヒサノ「…カッコいいかはわからないけど、ともかく私は壁女よ（笑） ユアは山女（笑）」

慶「いいコンビじゃない?（笑）」

景吾「格好的にもいいコンビだな（笑） ゴスロリと男装（笑）」

ユア「普通にスカートはいてる時もあるんだよ? 一応（笑）」

ヒサノ「『一応』はいらないでしょ（笑） 女らしい格好しても…壁だからね（笑）」

ユア「あ、もしかしてちょっと気にしてるの?（笑）」

ヒサノ「ん? いや、別に?（笑） ただ、ユアを見ると…うん、意識するね（笑）」

景吾「意識して少しは女らしくなったらいいんじゃないか?（笑）」

慶「別に意識しなくても女らしいと思うけど?（笑）」

景吾「ユアは女らしいがな、ヒサノは何処を見ても駄目だぜ?（笑）」

ユア「今度、女らしさを叩き込んであげるよv（笑）」

ヒサノ「叩き込んで身に付くもの?（笑） まあいいや、よろしくお願いします（> <）」

などと、ほのぼの(?) 会話をしていると…。

景吾「そうだ、お前ら、知ってるか? 来月、第一回文化祭」紫陽花の乱」ってのがあるんだってよ(笑)」

「「…は?」「」

紫陽花の乱…!?!?

景吾「聖華はいっぱい行事があるんだぜ? 知らなかったのか?

(笑)」

ヒサノ「初耳(笑) っていうか、第一回ってことは何度もあるわけ?(笑)」

慶「(生徒手帳を出して調べながら) あ、ホントだ、あるな

(笑)」

ユア「文化祭かぁv 楽しみv」

景吾「まあ文化祭の練習というか準備というか…それは今度の球技大会が終ってからだな」

ヒサノ「うわぁ…球技大会か(汗)」

慶「苦手?(笑)」

ユア「違う違う、出来るんだけど面倒なんだよね?(笑)」

景吾「まあ、7mの女だしな(笑)」

ヒサノ「うるさい!(笑) まあ頑張るけどさぁ…種目は何だっけ?」

ユア「確か、バレーボールと卓球だよ(笑)」

ヒサノ「よっし! 卓球で行こう!(> <)」

ユア「いや、全員バレーも卓球もするのよ?(笑)」

ヒサノ「（　　！？）…チーム戦って苦手だ（笑）」

景吾「まあそうばやくなよ（笑）　話それだが、来月、つまり6月は偏差値テストがあるぜ？」

慶「また？（笑）　テストや行事が好きな学校だな（笑）」

ユア「ホントにね（笑）　まあ楽しいから良しv（> <）」

ヒサノ「球技大会ってさ、卓球は女子vs男子があるみたい。ダブルスト、シングル（笑）」

慶「オレたち4人が当たったら笑えるよな（笑）」

さあ！？　慶くんの読みは当たっているのか！？　次回に続く（笑）

5月のGW!! (後書き)

こちら辺から、この物語のペーシングものが出てきます。
文章書くの、上手くなりたいなあ…。

波乱の球技大会！！真剣勝負！？

さて、ついに来ました！！ 噂の球技大会 噂！？

全員着替えて、運動場にでている！

ヒサノとユアは、クラスの女の子たちと楽しげに話しながら、開会式を待っていた

「ホントに行事が好きな学校よね（笑）」

「いいじゃん？ 授業つぶれるし（笑） ね？」

「みんな、優勝狙おうね！！」（笑）

などと、話していると、開会式が始まり、そしてついにヒサノとユアの所属グループが試合に

『頑張つてよー！！』

『ユア、こけないようにねー！（笑）』

『それを言うならヒサノもじゃない？（笑）』

などと、声援を受け、試合開始！！

「ええ！？ 私からサーブ！？ まあいいけど…」

と、ヒサノが言うのと、女子の間から景吾と慶が声をかけた！

慶 「ヒサノちゃん、頑張つてねー♡ ユアちゃんも頑張つて♡」

ユア 「ありがと！慶くん♡」

景吾 「ヒサノー！ へますんなよ？（笑）」

ヒサノ 「解ってるよ！（笑） よし、行け！」

ズバンツ サーブで得点入れた音

「えー！？ 今の何！？（；）」

「待つて！？ 滅茶苦茶速かったよ！？（笑）」

ユア「なんと、ダークホースの如月ヒサノ！ トスは7回のくせに、サーブが凄い！！（＞＜）」

ヒサノ「って、何でユアが実況中継してんのよ？（笑）」

ユア「いや、だってみんな、呆然としてるから（笑）」

うん、確かにね（笑）

チームの女子も驚いてます　そして、彼氏ゝズも驚いてます（笑）

景吾「あいつ…運動神経いいのか？ホントは（笑）」

慶「うん、よくわからないけど、凄いね（笑）」

さあ、そして今度はユアのアタックの番

ヒサノ「ユアー！　拾って！！」

景吾「ユアー！　頑張れよ（笑）」

慶「ユアちゃん　ファイトー！！」

ユア「よし！　そりゃ！！」

パサッ…ポトッ

ネットに引っかかり相手の陣地に見事に落ちた音

ヒサノ「その技は…ネット際の魔術師！？（笑）」

どこかで聞いたようなフレーズですね

「すっごい！　ファインプレーだ！！（笑）」

「ユア、うま〜い!!（笑）」

ユア「えへへ〜 見てた!? ヒサノv」

ヒサノ「見てた見てた!! っていうか同じチームだから見てないとオカシイでしょ（笑）」

ユア「確かに（笑）」

景吾「よくやったじゃねえか（笑）」

慶「何だかんだ言っつて、ユアちゃんもヒサノちゃんも上手いんだね（笑）」

さあ、今度は男性陣の番です

まずは景吾くんがサーブです!!

ヒサノ「景吾、外したら駄目だよ?（笑）」

ユア「外したらヒサノが関節技かけるっつて!!（> <）」

景吾「はあ?!（笑）」

慶「何!? その新ルール!!（笑）」

ヒサノ「かけないかけない!!（笑） 何を勝手なコト言ってるの!?（笑）」

ユア「そのほうが盛り上がるかな、と（笑）」

景吾「ともかく、まずはサーブだな…よし」

真剣に構えて、いざ サーブ!!

バコッ 球がそれで、クラスの男子に当たった音（笑）

「~~~~っ!! (涙) 跡部!! (涙)」

「あ、悪い(笑)」 景吾

慶「珍しいな、景吾が外すとは(笑)」

景吾「打つ時にブレたんだよ(笑)」

審判「サーブ、須堂」

慶「よし、いいところ見せないとな」

景吾「外すなよ(笑)」

ユア「慶くん、ガンバ」

ヒサノ「頑張れ!!」

スポーツ 球が体育館のバスケットゴールに入った音(笑)

『マジで!?(爆笑)』

景吾「...。お前、器用だな(笑)」

慶「ホントにね(笑) 何で入るかなあ... (笑)」

ヒサノ「慶くん、サイコーに面白かったよ」(笑) 景吾も笑えたし、ね?ユア(笑)」

ユア「2人とも笑いのセンスありだよ!! (笑)」

波乱の球技大会！！真剣勝負！？（後書き）

ここでは、ちよつとテニスの王子様ネタを出してみました。
『ネット際の魔術師』、このフリーズが好きなので（笑）

またまた真剣！？ 卓球で勝負

さあ、今度は卓球！！ 男子、女子を終え、男女対抗卓球勝負
さてさて！慶くんの予想は当たるでしょうか！？

景吾「慶、俺と組むだろ？ダブルス」

慶「ああ、もちろん！ で？ まさかとは思ってたけど…」

景吾「ホントにくじ引きかよ？（笑）」

ヒサノ「ふふふ」 私たちと当たるとは、運がない男達ねv（笑）

ユア「ヒサノ、それ、魔性の女キャラだよ（笑）」

ヒサノ「え？そう？（笑） 普通なんだけど（笑）」

景吾「つまり、普段から魔性の女なんだな（笑）」

慶「残念ながらそういう結果だね（笑）」

ヒサノ「と・も・か・く！ 負けたチームの方が、後でジュース奢
るってどう？（笑）」

ユア「お、いいね！ どう？お二人さんv」

景吾「上等だ（笑） ハンデとして、俺たちが負けたらジュース
2本買つてやるよ（笑）」

ヒサノ「おお、強気だねえ（笑）」

慶「一応、運動は得意だからね、オレと景吾v（笑）」

ユア「見てみて！！！！（バツと慶と景吾とヒサノに紙を見せる）」

ヒサノ「……！！？ シングルの勝負、私は慶くんとでユアは景吾と！
？」

ユア「これは因縁の対決だわ（笑）」

慶&景吾「いや、因縁じゃないし！？（笑）」

ヒサノ「カップル同士で当たるとはなかなか面白いじゃない」
ユア「まずはダブルスで勝負ね！！ 負けないよー！！（＞＜）」

やる気満々の女性陣（笑）

審判「跡部・須堂ペアvs如月・琴葉ペア 始め！」
如月「よし、サーブいくわよ！」

ビュンツ ピン球が空を切った音

審判「如月・琴葉ペア、先取！」

跡部「待て待て待て！！（汗）今のサーブ何だよ！？」

如月「スナッパきかせて回転かけたのv（＞＜）」

須堂「初心者じゃないの！？」

琴葉「ヒサノと私、実は中学校の時、卓球部だったことが判明したの（笑）」

もちろん、学校は違うけど偶然ね！」

如月「景吾と慶くんは初心者でしょ？ 構えを見る限りv（笑）」

跡部「くそっ…！（汗）まさか経験者だったとは…」

須堂「オレも授業でちよつと齧ったくらいだからなあ（汗）」

琴葉「ふっ…勝ったなv（笑）」

跡部&須堂「負けない！！！！」 負けず嫌い（笑）

さあ、白熱して参りました！！！！（＞＜）
跡部「スマッシュ！！！」

琴葉「甘い！ ブロックしちゃうもん（笑）」

須堂「うわっと、ラリー返すのが精一杯だな！（汗）」

如月「はい、ドライブで返してあ・げ・るvv（笑）」

結果：如月・琴葉ペアの勝ち

琴葉「やった〜 ジュース2本ゲットだぜ（＞ ＜）【ポケモン風に】」

如月「あゝ、いい汗かいたv」

跡部「だいぶ、コツは掴んだな。よし、シングルで負かしてみせるからな！（笑）」

須堂「シングルでは意地でも勝ってみせる！！（笑）」

さあ、ダブルスでは勝った女性陣

琴葉「よし、まず私から試合だよな？ ヒサノ！応援ヨロシク」

如月「オッケー！ いつてらっしゃいv 勝ってねv」

琴葉「もちv」

須堂「景吾、今度こそは勝てよ！」

跡部「ああ、絶対勝ってみせる！」

審判「跡部vs琴葉 始め！」

琴葉「景吾くん、これも勝ったらジュース買ってくれるの？v（笑）」

」

跡部「ああ、いいぜ？　ただし」

琴葉「？」

跡部「俺が勝ったらキスな（笑）」

琴葉「はあ！？／＼／＼」

この会話を周りにいたクラスメートが嗅ぎつけた！！（笑）

『マジで！？　跡部と琴葉さんの運命の試合だぜ！　みんな、見ておこうぜ！！（笑）』

『キス！？　跡部、頑張れー！！（笑）』

『ユアちゃんからキスするんだって？　ユアちゃん、勝たなくてもいいんじゃない？（笑）』

『公衆の面前でキスはハズイけど、楽しそうだから応援しとくねv
ユアv（笑）』

琴葉「待つて！？　まだオツケーしてないのに！！（汗）」

跡部「ま、オツケーも同然だな、この空気じゃ（笑）」

琴葉「…ヒサノ　　！！！！（汗）」

如月「んん、頑張れ（笑）」

琴葉「裏切り者　　！！（涙）　　！！　　如月ヒサノも負けたら彼氏にキスするって　　！！！！（笑）」

如月「なっ！？？（　　！？）」

須堂「え？マジ？v　ラッキー　　いただいておりますv（笑）」

『え、マジ？（笑）　この2試合は見ものだな』

『まさかヒサノまで乗ると思わなかったね（笑）』

『慶の【いただいておりますv】ってかなり妖しかったよな？（笑）』

『うん、かなりね（笑）　まあ須堂くんや跡部くんみたいな人が言う
と素敵だけど（笑）』

ヒサノ「ユアのバカ　　！！（涙）」

ユア「それを言うなら景吾くんに文句言つてよ（笑）」

景吾「いや、ヒサノを巻き込んだのは俺じゃねえし（笑）」

慶「ユアちゃん、サンキュー（笑）」

ユア「あ、私が巻き込んだのか（笑）」

ヒサノ「気付くの遅っ！？（；）」

ユア「いいじゃん、運命共同体でしょ？ 私たち（笑）」

ヒサノ「まあね（笑）　いいわ、勝てばいいんだから！（笑）」

慶「お？　腹を括ったの？（笑）」

ユア「こんなにギャラリイいたら腹括るしかないよね（笑）」

ヒサノ「うん、そうよね（笑）」

周りにはたつくさんの生徒たちが

皆さん、『頑張れー！！』とか、『キス獲得しろよー！（笑）』とか言つて楽しんでます（笑）

さあ、試合の始まりだ！！

審判「サーブ　琴葉！」

琴葉「よし！！　勝負！！」

と、気合を入れて打ったスマッシュ並のサーブを…？

跡部「ふん、もうダブルスで学習したからな（にやり）」

琴葉「うつそお！？　返ってきた！！（汗）」

力強く返ってきたピン球を返したものの、アウト
その後も、このような形が続き、あと2点先取でゲームセット。

負けているのは…？

琴葉「ヤバイ、ヤバイよ！！（汗） ヒサノ！！ 何か得策ない？！」

如月「審判さん！タイム！！」

如月「いい？ 景吾はバックが苦手とみた。そこをついていく！オツケー？」

琴葉「ありがとう！ やってみる！！」

跡部「ん？ もう相談終了か？（笑）」

琴葉「如月コーチにアドバイスもらったからね」

と、一瞬強気だったが…。

審判「ゲームセット！ 勝者、跡部！」

跡部「ほらな？ 運命は変えられない（にやり）」

名言です

琴葉「負けけた…（汗） 何で！？ ヒサノの読みは結構当たってたと思ったのに！」

須堂「景吾はね、苦手なところをすぐ直せるんだよ（笑）」

如月「天才か（笑）」

と、話していると、周りから

『おい！ 勝負ついたんならキスだぞー？（笑）』と、聞こええきた

琴葉「ええ ……！！？（汗）」

須堂「待つて？ 次の試合でオレもキス獲得するから、一緒に（笑）」

如月「勝つ気満々ね？（笑） 負けないわよ！（笑）」

さあ、ユアちゃんはキス決定ですが、ヒサノちゃんはどうでしょう？？（笑）

審判「須堂vs如月 始め！」

須堂「オレからサーブか、よし！」

スマッシュ

如月「ええ！？（汗） 速い！！ ついていけないよ！！（汗）」

琴葉「ヒサノ！ 焦らずに！（笑）」

跡部「いいぞ、その調子だ、慶！（笑）」

須堂「だいぶコツを掴んだからね キスはいただき v」

結果。

如月「あゝあゝあゝ…（涙）」

琴葉「地の底から出ているようなうめき声をあげている如月ヒサノが完封負けしました（笑）」

須堂「琴葉さん、如月選手の結果、どう思われます？（笑）」

琴葉「プレッシャーに負け、テクニクでも負け、完璧な負けだと思われます（笑）」

如月「実況中継すんなー！（笑）」

跡部「見事、跡部・須堂はキスを獲得しました（笑）」

須堂「さあ、キスの時間ですv（笑）」

何か、実況中継、楽しそうですね

『キゝス！キゝス！！（笑）』

と、周りから囃し立てられ、恥ずかしそうに彼氏の前に行くヒサノとユア（笑）

ヒサノ「ま…マジでやるのですか？（汗）」

ユア「ここは、学校ですよ？（汗）」

景吾「いいんじゃないか？ ファーストキスがここにいる全員に見せられるんだぜ？（笑）」

ヒサノ「恥知らずか！！（笑）」

慶「まあ、負けは負けだからね？（笑） 腹を括ったんでしょ？（笑）」

ユア「あ！ ヒサノ、ちょっと！！（笑）（と、言ってヒサノを部屋の隅に連れて行く）」

ヒサノ「何？」

ユア「キスだけど、どこにするかは決めてないじゃん？（笑）」

ヒサノ「！！ 確かに！！（笑） 偉い！ユアちゃん！！（笑）」
2人は顔を見合わせて笑った（笑）

ヒサノ「ただいま～！ じゃあキスしますv（笑）」

『おー！ やれやれ！！（笑）』

『友達のキスシーンって滅多に見れないよね！（笑）』

ユア「はい、じゃあ2人とも目を瞑って？（笑）」

景吾&慶「了解（笑）」

頬にキス

景吾「…。まさか、今のがキスか！？（汗）」

慶「詐欺だ！！ 頬つてあり！？」

ヒサノ「だって、誰も唇にするとは言っていないもん　ねー！みんな！（笑）」

「あゝ、確かに頬でもキスだよな（笑）」

「なんだあ、期待したのに（笑）」

「今のは跡部と須堂のミスだな（笑）」　しっかり場所を指定しなきゃ（笑）」

ユア「はい、残念」

景吾「くそっ…でも普通はキスって唇だろ！？」

ヒサノ「それは接吻です（＾）」

慶「【接吻】と書いて【キス】とも読むだろ！？」

ユア「それは人それぞれです（＾）」

と、永遠に言い続けているのを、ヒサノとユアは上手く丸め込んだ（笑）

残念だったね！彼氏ゝズ（笑）

またまた真剣！？ 卓球で勝負（後書き）

こんな卓球大会、盛り上がるかもしれないけど風紀的によくないですよね（笑）

あんまりそこらへんは考えてないのですが…。

文化祭、劇の後の記者会見

きゅん きゅん きゅん

！！！！！

と、黄色い歓声が場内を沸かす

4人は、素敵に微笑みながら、映画の中の格好をして、舞台に立っていた！

4人は、文化祭でCGを使った劇をしたのだ。

その後、舞台衣装で記者会見！

マイクをもらい、『一言ずつ挨拶を！』というカンペを見て、景吾から挨拶をすることに

「跡部景吾です。映画を見ていただき、ありがとうございます」

「須堂慶です！ CGって思ったより楽しかったです（笑）」

「琴葉ユアです
たです」

すぐく大声で魔法を唱えたりできて楽しかつ

「最後に、如月ヒサノです 私はこのゲームのファンでしたから、この企画はとても楽しみにしていましたv」

そして、監督である大学生の相沢蒼紫さんがでてきて、本格的な記者会見始まり

記者1 「みなさん、役作りとかはどうされたのですか？」

ヒサノ「基本的に、役作りはありませんでした。だから、素ですね（笑）」

と、こんな感じで初めはインタビューしてたのですが…？（笑）

記者「4人は、跡部くんは琴葉さんと、須堂くんは如月さんと交際中と聞いていますが、どうなんです？」

景吾「どうなんです？って……（笑）普通に付き合ってますよ」
記者「お互い、心に決めていたんですか？ 【この人と付き合う

「！！」みたいな？」

慶 「はい、もちろんv」

女性陣「」（偶然会っただけじゃないのか？） 微妙にナンパっぽかったし（笑）」

記者『実際のところ、どこまでいつてるんです？（笑）』

4人「「「「は？」「」「」

観客『とぼけんなよー？ お前ら、学校中で噂なんだからなー？

（笑）』 クラスメートの小林君。

慶 「待て、小林！！ 何だよ！？ 噂って！！（笑）」

記者『あれ？ 知らないんですか？

あの4人は跡部くんと須堂くんが18歳になったら2組で学校で結婚式を上げると専らの噂で…（笑）』

4人「「「「はあ！？！？／／／／」「」「」

ユア「ま、待つて待つて！（汗） そんな計画はないですよ！？」

ヒサノ「何でそんな噂流れてるんですか！？（汗）」

と、女性陣がパニックってる間、慶と景吾は小声で何かを話し、にやりと笑った（笑）

記者『あれ？ 跡部くんと須堂くんが【当たり前だ】みたいな顔してますけど？（笑）』

景吾「それはあくまで噂ですが、事実になりたいと思います（笑）」

ユア「け、景吾くん！？／／／／」

慶 「そうですね、ナイスな計画だと思うので、今のうちに婚約指輪でも用意しておきますよv」

ヒサノ「ええ！？／／／／」

『『『『『おお ！！！！（笑）』』』』』

『いいぞー！慶！ 景吾も用意しろよ？（笑）』

『そっかあ、ヒサノとユアもすぐ結婚するのねv クラスの女子で一青窈の【ハナミズキ】でも練習しとこっか？』

『いいね、それ！ じゃあ男子は郷ひろみの【お嫁サンバ】？』

ヒサノ＆ユア「待つて！？ 何でそんなに話が展開されてんの！
？（汗）」

慶「まあ、その話は置いておいて（笑） 他に質問はありますか？v」

記者「そうですね…。このCG映画を通して、お互いわかりあえたことかありますか？」

観客「【いつもカッコいい彼氏が、更にカッコよくみえて最高でしたv】って言うって！！（笑）」 クラスメートの美沙ちゃん。

ユア「美沙！！／／／／」

記者「お？ 赤くなってるってことは図星ですか？（笑）」

ユア「え、いや、…えーっと…、ヒサノ姉さんパス！！（笑）」

ヒサノ「は？（笑） そうですね、今度、旅行とか行っても楽しいだろうなあと思いました（笑）」

記者「4人で、ですか？」

ヒサノ「はい（笑）」

慶「彼氏と2人で行きたいv とか言えないの？（苦笑）」

ユア「だって、2人で行くと危ないよ（笑）」

景吾「へえ…ちゃんとそーゆーコトも考えてんだな？（にやり）」

ヒサノ「バカ！！（笑）」

記者「じゃあ跡部くん、須堂くん、旅行4人で行って、是非、頑張って2人部屋に連れ込んでやってください（笑）」

ユア「なっ！？（笑）」

ヒサノ「4人部屋予約しよつと（笑）」

記者「さて、旅行の話はまた今度続きを聞くということで、…つて、会場、大盛り上がりですね？（笑）」

確かに 大盛り上がりです

記者「こんなに盛り上がってたら止められませんね（笑） じゃあ、

お互いの第一印象をお聞きしましょうか？」

景吾「俺はゆいは【可愛い奴だな】と、思いましたね（笑） 慶とヒサノとは前から知り合いなんで、忘れました（笑）」

記者「【可愛い奴だな】と、思われた琴葉さんはどうですか？」

ユア「【美形だな、気が強そうだなあ】と思いましたね（笑）

慶くんは【男の子なのに綺麗だ】と。ヒサノは、第一印象と今の印象は全然違いますね（笑） 何か、別人みたいです（笑）」

ヒサノ「え、私、そんなに变？（笑）」

記者「僕のイメージは【クール】って感じですけど？」

ユア「それが、クールじゃないんですよ（笑） 結構、そうですね、仲良くなればすぐわかりますよ？（笑）」

記者「へえ……じゃあ如月さん、僕とお付き合いしませんか？（笑）」

ヒサノ「告白ですか？（笑）」

慶「彼氏の前でよく口説けますね（笑）」

記者「あはは、冗談ですよ（笑） でも、僕は如月さんと琴葉さんのファンですからね（笑）」

慶「え？ そんなんですか？（笑）」

記者「ファンクラブ入ってます（笑）」

ヒサノ「……ファンクラブなんてあるんですか！？（驚）」

記者「あれ？ 知りませんでしたか（笑） 4人ともファンクラブありますよ？」

4人「……マジで？（笑）」

「マジマジ ……」（笑）」

「え……!? マジで知らなかったのかよ!?（笑）」

「私、跡部くんのファンクラブ入ってるんだ！」

「俺は、ユアちゃんだな あ、ヒサノちゃんのも入ってる……！」

「自分の彼女が慶のファンクラブ入ってるって複雑なんだぜー？ よっ！罪な4人組！（笑）」

記者『写真とかも売られてますよ？ 学生主催購買部で（笑）』

4人「……」（；）「……」

記者『売り上げは4人一直線って感じです。今日の映画の写真や、色々新たに発売されると思いますよ？（笑）』

慶「ち、ちなみに、どんな写真が……！？（汗）」

記者『僕は今、持ち合わせてないですね……。観客の方で持っていないらっしゃったら見せてもらえますか？』

と、言った瞬間、観客ほぼ全員が鞆や手帳から写真を出しだした

記者『ちよつとお借りしますね。ちゃんと返しますから！
まずは跡部くん』

そう言つて、4人に見せられたのは、景吾が教室でシャレた眼鏡をかけて勉強している写真

景吾「マジかよ……（笑）」

記者『じゃあ次、須堂くん』

次は、慶が笑顔で友達と話している写真

慶「まあ、これくらいならいいけど……（笑）」

記者『じゃあ次、琴葉さん。あ、これは2枚セットだよ』

琴葉ゆいの写真は……。

ユア「待って！？ これ、ヤバイっしょ！？（汗）」

さあ、ユアちゃんの写真とは??

体育のあと、着替え終わる間近の写真

ブラウスの下のほうのボタンをとめている写真と、鏡を見ながら胸元にリボンをつけているところ

景吾「…この写真、持つてる奴全員、今すぐ捨てる!!!」(怒)
ヒサノ「うわぁ…際どいね(苦笑)」

慶「これは…着替え終わってから写真撮ってほしいね(汗)」

記者『如月さん』

ヒサノ「はい?」

記者『人事じゃありませんよ?』(笑) 如月さん、もっと凄いで
すから。あ、琴葉さんもね』

ヒサノ&ユア「え」(汗)「」

ヒサノの写真とは…。

体育のあと、更衣室でクラスの女子に遊ばれてさせられた格好
制服なんです、滅茶苦茶ミニス力で、色っぽく髪を掻き揚げてる
写真

そして、隣には同じ格好のユアちゃんも

ヒサノ&ユア「美沙 !!!!!売ったな!?(汗)」

美沙「だって、どうしても欲しいって言われたから、3千円で」

(笑)」

慶「この写真を持つてる男は、即座に捨ててください」(怒)」

景吾「全く、何でこんな写真が出回ってんだ!? 回収するぞ!
回収!!!」(怒)」

記者『大丈夫ですよ? 微笑ましい写真もちゃんとありますから
(笑)』

ユア「どんな?」(汗)」

そう言つて、出された写真とは…。

ヒサノと景吾がじゃんけんをしている写真

ヒサノ「な、なんであるの！？（汗）」

慶「これ、確か、じゃんけんで負けたらパシリになるのを決めるじゃんけんだよな？（笑）」

景吾「げ…ハズいな、これ（汗）」

ユア「あははは、二人とも真剣だねえ（笑）」

記者『これから、【聖華学園アイドル】達として、頑張ってください！』

あ、ちゃんと今日の記者会見の写真も撮ってます。今度、渡しますね！では、これで記者会見を終わります！』

文化祭〜劇の後の記者会見〜（後書き）

本当は、バーチャル劇も書いてあるんですが、『ティルズオブデステイニー2』のパロディにしているので、掲載していいかわからなかったなので、省きました。

だから文章が急に文化祭に…（汗）

美沙ちゃんと小林君も後々活躍するメンバーですので！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6941/>

聖華学園物語

2010年10月9日01時46分発行